



19馬発第309号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 宮田 年耕 様

馬路村長 上治 堂司



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について(回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答します。

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

基幹道路の整備の推進

◇災害時、基幹道路が寸断され、陸の孤島となりうる確率の高い本村において、医療、買い物等のサービスを広域的に共有できる連携、交流基盤を整えるためにも基幹道路の整備はまだまだ発展途上です。



※馬路村の概要

馬路村は、人口 1,100 人ほどの小さな山村です。全国的に高齢化の波が押し寄せる今日、本村においても例外ではなく、近年若年層の人口の流出による過疎化、高齢化が進んでおり、高齢化率は 33.8%と高齢化の一途をたどっています。

また、四国の中央部を東西にはしる四国山地を背後にひかえ、太平洋からふきあげてくる高温多湿の風が標高 1,000m級の山脈によって遮られて多量の降雨をもたらし、1ヶ月の平均降雨量は、約 300 mmと全国でも有数の多雨地帯でもあります。

村外へのアクセスは、県道安田東洋線の 1 本だけであり、迂回路はなく、公共交通機関での交通手段は、この県道を 1 日に 4 便通るバスだけなので、村の多くの者は、移動手段として自家用車に頼っています。

この県道は、年間約 400 団体（約 1 万人）の視察団体を大型バスあるいは中型バスで受け入れ、また、基幹産業である「ゆず加工品」や「木材」を大型トラックで輸送する道路でもあります。（1 日あたりの売上げは約 1,000 万円）

さらに、馬路村には、大きな総合病院は無く、村が運営する馬路診療所・魚梁瀬診療所の 2 つの診療所のみで医師は 1 名だけで、また、馬路村を管轄する消防署は田野町に所在しており、不利な地理的条件から緊急車両の到着までに 30 分を要するため、火災時や救急時の応急措置は、地元住民で結成される消防団や自治体の担う役割が非常に大きく、病院までの緊急搬送が発生した場合、救急車の到着までに 30 分、病院までの搬送に 30 分、合計 1 時間を要します。

また、南海地震をはじめとする災害時には道路が寸断され、陸の孤島となりうる確率は非常に高いのです。

村を支える産業の道路、そして、高度医療施設への早急かつ安全な搬送を可能とする道路整備が必要不可欠です。

2. 地域の自立を支援する道路整備

村道の維持管理の整備推進

◇住民が安全で安心して生活するための村道の維持管理等整備が必要不可欠です。

※馬路村における道路状況

急傾斜地が多く、道路の幅員が十分確保されているとは言い難い状況です。

村道は、幅員 5.5m 未満が 95% を占めており、車同士がなんとかすれ違うことのできる道路、あるいは車 1 台しか通れない道路がほとんどです。しかしながら、生活道であるため、大型車が通る同じ道路を、子供たちは通学路として自転車通学等で利用し、お年寄りも同様にこの狭い道を歩行しています。

急傾斜地に指定されている箇所も数多く、そのような条件下で整備された村道は、大雨時には小規模なものも含めると災害も頻繁に発生し、生活に支障をきたす場面も稀ではありません。

土地利用

農用地		宅地	森 林		道 路			水面・河川等			そ の 他	計
田	畑	宅地	国有林	民有林	一般 道路	農道	林道	水面	河川	水路		
24	42	29	11,813	4,001	62	5	150	262	144	1	19	16,552 ha
0.14%	0.25%	0.18%	71.37%	24.17%	0.37%	0.03%	0.91%	1.58%	0.87%	0.01%	0.11%	100%

(高知県土地対策課調べ 平成12年10月1日現在)

村道

(単位:m)

年度	区分	幅員 5.5m未満	幅員 5.5m以上	合 計
	平成15年度		60,326	
		95%	5%	100%

(道路現況調査 平成16年3月31日現在)

【災害状況】



大雨による路側崩壊（馬路村 河平）



大雨による山側崩壊（馬路村 一谷）

県道は、村民の産業と福祉を支える“命の道”であり、村道は村民の生活を支える“生命の道”です。村民一人一人の生活がかかっている道路だからこそ守るべき“道”なのです。そのため、村民は年1回行われる、道路の清掃ボランティアにも積極的に取り組んでいます。

これまで整備してきた道路、橋梁自体の高齢化が進み、耐用年数等を考慮しても道路の改良はまだ不十分であり、高齢化社会における住民や、次代を担う子どもたちにとって安全で安心して歩行できる道路整備への配慮が必要です。

村道の維持管理は、欠かすことのできない道路行政だと考えます。

3. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

伝統的な農村風景の保全

◇効率化と景観の双方の満足度を上げていく整備方法が強く望まれています。

※馬路村の取り組み

県道、村道、農道、林道は山の中をはうように開設されており、昔ながらの風景が今なお残されています。そして、私たちはこの風景のなかで、日本特有の四季を感じることができます。

いま流れゆく時代のなかで、山村が次々と姿を消しつつあります。もちろんそれに伴い、そこにあった田舎の田園風景も姿を消しつつあります。いま残すべき日本の田舎の風景が馬路村には残っており、そこには、人が住み、生活するための道路があります。

本村では、馬路村「木の里」街なみづくり景観条例を制定し、道路も含めた景観作りに取り組んでいるところです。

4. 道路政策や道路管理全般に関すること

高齢者、子どもが安心して歩行できる道路整備

◇高齢者や子ども、障害者等の利用上の利便性、安全性の向上を図りながら、公共の福祉を充実させることが道路整備においても重要と考えます。

馬路村も高齢化の一途をたどっています。

これからも高齢者人口は減少することはなく、増加の一途が予想されます。それに対し、次世代を担う子どもたちは減少する一方です。

どちらも立場は違いますが、守るべき大切な命です。

高齢者と子どもが安全に安心して歩行できる道路空間の創造が必要です。

馬路村には白線のない道路も数多くあり、すべての道路が整備され、高齢者と子どもが安全に安心して歩行できる空間とは言い難い状況です。

景観との調和（木づかい）

◇木製品を使用することは、国土の67%、高知県では84%、馬路村では96%の森林の手入れが進み（間伐が進み）、そのことが、国土の保全へとつながり、CO2削減への大きな推進力となります。

木製品の利用を積極的に導入していただくことを強く要望します。

中山間地域の多い高知県、その中でも森林率96%の本村は、森林に囲まれた緑の資源が豊かな村です。

だからこそ、周りの景観と調和した道路整備が重要であると考えます。

自然を守り育てる視点を持って整備することが自然との共生につながるのではないかと。森林と融合することで、森林のもつ癒しの効果を私たちの生活の中に取り入れることができると考えます。

木製ガードレール、木製転落防止柵、残地型柵等、今日では様々な木製の資材が研究開発されています。現状では採用される件数が少ないことから単価が割高となり、既存品がその市場の大半を占めているのが現状ですが、積極的な木製品の利用により、道路行政と国土保全の両面をあわせて推進することができると考えます。

【使用事例】



木製転落防止柵（馬路村 北路甫木）



木製ガードレール（馬路村 平瀬）